

放課後等デイサービス事業所における自己評価結果（公表）

公表：令和 4 年 4 月 1日

事業所名 放課後等デイサービス ほけっと

		チェック項目	はい	どちらとも いえない	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた 改善内容又は改善目標
環境・ 体制 整備	1	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	6	4	0	別のブースを作ることに対応している	曜日によって、人数に偏りがある。
	2	職員の配置数は適切である	4	6	0		送迎が多い時は、手薄だと感じる。日によって人員不足を感じる。増員も必要。
	3	事業所の設備等について、バリアフリー化の配慮が適切になされている	4	4	1	応じて、パーテーションがなされている。車いすも入りやすい	トイレの手洗い場が利用しにくい。車いす利用者のトイレ介助を行うベッドのある個室が必要。
業務 改善	4	業務改善を進めるためのPDCAサイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画している	2	7	1		全てに目が行き届いてない。スタッフ全員が業務に取り組めるようにする。
	5	保護者等向け評価表を活用する等によりアンケート調査を実施して保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	3	6	1		保護者向け評価表を、職員全員が把握する。昨年度の評価結果に基づいた改善はなされつつある。
	6	この自己評価の結果を、事業所の会報やホームページ等で公開している	5	3	1		
	7	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている	2	5	2		
	8	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	5	5	0	外部の研修に参加している。	
適切 な支	9	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成している	5	5	0	職員同士、情報共有しながら、計画作成ができている。	子どもや保護者のニーズが、現場の職員全員には伝わっていない。
	10	子どもの適応行動の状況を把握するために、標準化されたアセスメントツールを使用している	5	4	1		
	11	活動プログラムの立案をチームで行っている	2	8	0	野外・体験活動・季節行事などができている。	チームで行っているとは言えない。
	12	活動プログラムが固定化しないよう工夫している	4	6	0	活動の提案はよく出されている。利用者一人一人の状況に応じた工夫ができている。	
	13	平日、休日、長期休暇に応じて、課題をきめ細やかに設定して支援している	5	5	0	細かいが、課題は設定されている。長期休暇では、学習に取り組める環境を作っている。	

援 の 提 供	14	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成している	7	3	0	利用者の状況に応じた活動や取り組みができていない。	
	15	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	7	3	1	担当の職員同士での打ち合わせもできている。	打ち合わせに、毎日きちんと時間を割ける状況にない。
	16	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	1	6	3	その日の様子の伝達や共有ができていない。	打ち合わせに、毎日きちんと時間を割ける状況にない。
	17	日々の支援に関して正しく記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	3	6	1	連絡ノートやまなざしノートへの記入によって、状況や変化の把握ができていない。	記録はしているが、支援の検証改善につながっていないのか疑問が残る。
	18	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断している	4	4	1		
	19	ガイドラインの総則の基本活動を複数組み合わせ放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断している	2	6	2		ガイドラインの理解が必要。
関 係 機 関 や 保 護 者 と の 連 携	20	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	5	5	0	相談支援事業所のサービス担当者会議が開催されていない。	
	21	学校との情報共有（年間計画・行事予定等の交換、子どもの下校時刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っている	8	2	0	学校の送迎時に、先生から伝達等があり、連携が取れている。	
	22	医療的ケアが必要な子どもを受け入れる場合は、子どもの主治医等と連絡体制を整えている	5	2	2	医療的ケア児は受け入れていない。	
	23	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めている	2	5	1		
	24	学校を卒業し、放課後等デイサービス事業所から障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等している	2	5	1		
	25	児童発達支援センターや発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	3	6	1	佐賀県療育支援センターの研修会に参加している。	研修を受ける環境がもっと整えばよい。
	26	放課後児童クラブや児童館との交流や、障がいのない子どもと活動する機会がある	3	6	1	月一回子ども長堂に参加しているが、交流には工夫が必要	交流は難しい。
	27	（地域自立支援）協議会等へ積極的に参加している	1	4	4		協議会の存在を知らない。

	28	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	8	1	1	連絡ノートで、その日の様子を伝えている。	子どもや職員によって、共通理解に差がある。
	29	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対してペアレント・トレーニング等の支援を行っている	2	4	4		時間を確保して実践する必要がある。
保護者への説明責任等	30	運営規程、支援の内容、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	6	9	0		
	31	保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	5	3	1		相談は、管理者に伝え、対応している。管理者が対応しているので、詳細はよくわからない。
	32	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している	0	3	7		時間的には難しいが、必要だと思う。保護者同士の交流の場や保護者との面談の機会を増やす。
	33	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応している	8	2	0		管理者と職員で話し合いをして対応し、再発防止に努めている。
	34	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	8	1	1		毎月、広報を発行している。
	35	個人情報に十分注意している	10	0	0	書類は全て、事業所で保管している。	
	36	障がいのある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	6	4	0	利用者一人ひとりに応じて、コミュニケーションを取っている。保護者には、連絡ノート	
37	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている	5	5	0			
非常時等の対応	38	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、職員や保護者に周知している	6	4	0		職員だけでも、避難について周知してほしい。
	39	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	6	3	1	定期的に避難訓練を行っている。	職員間の、避難の周知が必要。
	40	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	3	6	1		
	41	このような場合に子どもを身拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載している	1	7	1	身体拘束は行っていない。	
	42	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	7	2	1	保護者からの依頼による除去食は行っている。	
43	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	9	1	0	事例集はないが、ヒヤリハットは記録し、事業所内で共有している。	ケガがあった時は、事故報告を作成し、職員間で共有し、再発防止に努めている。	